

身近な危険物の火災、その消火方法



ガソリンをはじめとする危険物を安全に取り扱うためのポイントについてご紹介しましたが、それでも万一火災が起きたとき、どのように消火すればよいのでしょうか？

やめましょう！水での消火

ガソリンや灯油、軽油の火災は水で消すことができません。ガソリンなどは「油」であるため、これらの火災に水をかけると、火が付いたガソリンなどが飛び散ったり、水より軽いガソリンなどが水の上に広がり火災が広がるおそれがあります。水での消火は絶対にやめましょう！

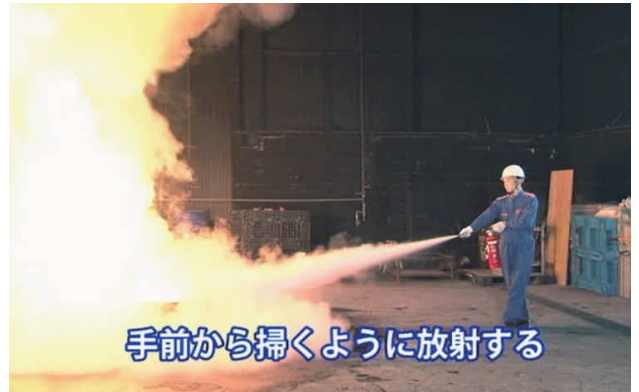


消火器の正しい使い方

- ①まず、安全ピンを引き抜く。
- ②ホースを外し、火元に向ける。



- ③レバーを強く握って手前から掃くように放射する。



適切な消火器で消しましょう

消火器を選ぶポイントは、消火器がガソリンなどの火災に対応していることを確認することです。消火器には、どのような火災に対応できるかを示す「ABCマーク」やイラストが表示されています。ガソリンなどの火災には、ガソリン、灯油などの油類の火災に対応していることを示す「Bマーク」やイラストが表示されている消火器を使いましょう。なお、「Aマーク」は木材、紙、繊維などの普通火災、「Cマーク」は配電盤、コンセントなどの電気火災に対応していることを表しています。



ご家庭に消火器を備えておくと、いざという時に役立ちます。もちろん、「ABCマーク」やイラストのチェックもお忘れなく。

消火器の保管方法

消火器は、誰もが見やすく使いやすい場所に置きましょう。また、湿気や直射日光を避け、転倒しない工夫をすることや、使用期限を日頃からチェックすることも大切です。



いざというとき、冷静に正しく消火器が使えるよう、地域の防災訓練などに積極的に参加して、日頃から使い方に慣れておくことをお勧めします。

